



图4-1 调查地点位置图 S=1:5000

平成7年度

表5-1(1) 含有量分析結果

項目 試料No.	試料採取 標高(m)	堆積面から の深度(m)	ig loss (%)	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	CaO (%)	MgO (%)	SO ₃ (%)	Na ₂ O (%)	K ₂ O (%)	CO ₂ (%)
No. 1-1	903.00	-0.5	15.2	20.1	23.0	1.57	10.3	0.56	2.85	0.58	0.27	9.9
No. 1-2	902.30	-1.2	14.3	18.7	18.6	0.92	16.2	0.69	0.77	0.76	0.25	14.9
No. 2	902.35	-0.8	15.2	25.5	21.7	2.87	9.01	0.61	2.60	0.80	0.48	7.8
No. 3-1	904.19	-1.0	11.3	35.2	22.0	5.11	4.48	0.58	4.30	1.12	0.88	2.4
No. 3-2	903.05	-2.0	12.8	32.9	23.3	4.21	3.08	0.47	3.97	0.99	0.77	1.3
No. 3-3	902.35	-2.8	11.3	35.5	20.2	3.41	6.36	0.61	3.75	1.24	0.83	5.3
No. 4-1	904.00	-1.0	10.9	30.9	21.2	4.09	4.00	0.43	3.67	0.89	0.67	2.9
No. 4-2	903.00	-2.0	8.4	42.2	21.8	2.48	5.70	0.86	4.72	1.45	1.05	3.9
平均 値	湯川筋		14.8	19.4	20.8	1.25	13.3	0.63	1.81	0.67	0.26	12.4
	大沢川筋		11.7	33.7	21.7	3.70	5.44	0.59	3.84	1.08	0.78	3.9
	全試料		12.4	30.1	21.5	3.08	7.39	0.60	3.33	0.98	0.65	6.1
最大値			15.2	42.2	23.3	5.11	16.2	0.86	4.72	1.45	1.05	14.9
最小値			8.4	18.7	18.6	0.92	3.08	0.43	0.77	0.58	0.25	1.3

備考1) 試料採取標高及び堆積面からの深度は、試料採取層の中央値を示す。

2) 単位は水分のみ重量基準、他は乾重量基準である。

3) ig loss: 焼失率、SiO₂: 二酸化珪素、Al₂O₃: 酸化アルミニウム、Fe₂O₃: 酸化鉄第2鉄、CaO: 酸化カルシウム、MgO: 酸化マグネシウム、SO₃: 三酸化硫黄、Na₂O: 酸化ナトリウム、K₂O: 酸化カリウム、CO₂: 炭酸塩を二酸化炭素表示したものを示す。

4) 各平均値と試料No. との対応は次のとおりである。湯川筋: No. 1-1, No. 2 大沢川筋: No. 2~No. 4-2 全試料: No. 1-1~No. 4-2

表5-1(2) 含有量分析結果

項目 試料No.	試料採取 標高(m)	堆積面から の深度(m)	S ²⁻ (mg/kg)	As (mg/kg)	Cd (mg/kg)	Pb (mg/kg)	水分量 (%)
No. 1-1	903.00	-0.5	250	3120	1.70	118	70.6
No. 1-2	902.30	-1.2	860	1920	1.86	96.4	62.4
No. 2	902.35	-0.8	280	1350	1.56	69.4	68.2
No. 3-1	904.19	-1.0	210	295	0.49	36.3	61.8
No. 3-2	903.05	-2.0	200	477	0.63	50.2	68.4
No. 3-3	902.35	-2.8	210	247	0.57	32.4	56.7
No. 4-1	904.00	-1.0	220	251	0.55	38.1	68.4
No. 4-2	903.00	-2.0	60	171	0.21	23.1	49.4
平均 値	湯川筋		560	2520	1.78	107	66.5
	大沢川筋		200	499	0.67	41.6	62.2
	全試料		290	1000	0.95	58.0	63.2
最大値			860	3120	1.86	118	70.6
最小値			60	171	0.21	23.1	49.4
含有量参考値			-	50	9	600	-
土壌の含有量			-	6	0.06	10	-

備考1) 試料採取標高及び堆積面からの深度は、試料採取層の中央値を示す。

2) 単位は水分のみ重量基準、他は乾重量基準である。

3) 含有量参考値は「重金属に係る土壌汚染調査・対策指針及び有機塩素系化合物に係る土壌・地下水汚染調査・対策指針」(平成5年11月 環境庁水質保全局)の対策指針規定基準の含有量参考値。

4) S²⁻: 硫化物硫黄、As: 砒素、Cd: 鉛、Pb: 鉛

5) 各平均値と試料No. との対応は次のとおりである。湯川筋: No. 1-1, No. 2 大沢川筋: No. 2~No. 4-2 全試料: No. 1-1~No. 4-2

6) 土壌の含有量は、「日本環境図誌」(半谷高久 監修、大竹千代子 編 共立出版)より転記。

表5-2 水溶性成分分析結果

項目 試料No.	試料採取 標高(m)	堆積面から の深度(m)	Cl ⁻ (%)	SO ₄ ²⁻ (%)
No. 1-1	903.00	-0.5	0.060	0.56
No. 1-2	902.30	-1.2	0.038	0.30
No. 2	902.35	-0.8	0.040	0.38
No. 3-1	904.19	-1.0	0.024	0.84
No. 3-2	903.05	-2.0	0.034	0.66
No. 3-3	902.35	-2.8	0.020	0.59
No. 4-1	904.00	-1.0	0.035	0.80
No. 4-2	903.00	-2.0	0.015	0.64
平均 値	湯川筋		0.049	0.43
	大沢川筋		0.028	0.65
	全試料		0.033	0.60
最大値			0.060	0.84
最小値			0.015	0.30

備考1) 試料採取標高及び堆積面からの深度は、試料採取層の中央値を示す。

2) Cl⁻: 塩化物付分、SO₄²⁻: 硫酸付分

3) 各平均値と試料No. との対応は次のとおりである。

湯川筋: No. 1-1, No. 2 大沢川筋: No. 2~No. 4-2

全試料: No. 1-1~No. 4-2